



【支援企業紹介】

株式
会社

千既マランツ

P2

ものづくりの 可能性を信じて、道を切り開く



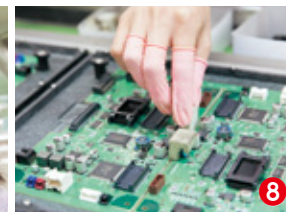
平成25年度

下請取引条件調査結果 P4

いわて異業種交流討議会 P7

「新素材・加工産業化研究会」の
開催について P8

ビデオ・図書コーナーのご案内 P8



- ① 椎茸は作業性やスペース効率等を考慮し、菌床を棒に吊るす栽培法を採用。1つの菌床で約3ヶ月間の収穫が可能。
- ② 植菌後1ヶ月の菌床を導入し、社内で培養。90日～100日で栽培室に移される。
- ③ 新事業推進部の千葉部長。一関市の六次産業推進事業やトマト農家と協力した培地の再利用などにも積極的に取り組む。
- ④ 乾燥椎茸や椎茸の佃煮なども製造。より高付加価値の商品開発も行っている。
- ⑤ ⑥ 基板実装は全5ライン。小ロット多品種に対応、24時間態勢で生産に臨む。
- ⑦ ⑧ ⑨ 加工機では装着不可能な大型部品は手差し工程を経て完成。品目に合わせて人員や部品点数を調整して行われる。
- ⑩ 実際の装置に基板を搭載し動作検査。
- ⑪ ⑫ 完成品製造フロアでは業務用無線機を製造。昨年度は一関市の依頼で防災用ラジオを製作、サポートも行っている。

ものづくりの可能性を信じて、道を切り開く

誘致企業として昭和50年に一関市千厩町で創業し、平成14年にMBOにより親会社から独立した株式会社千厩マランツ。工場閉鎖の危機を乗り越え生産環境の向上につとめ、既存事業の枠を越えた新分野へのチャレンジも順調だ。日本のお家芸ともいわれた製造業界に吹き荒れる嵐に耐え、ものづくり環境を守る方策は何か。及川宏社長が語った。

MBOにて大手メーカーから独立親会社に頼らず生産力を高度化

「国内生産のメリットは少量多品種。従来同様コンシューマーを追いかける事業では、もう海外との競争には勝てません」。

株式会社千厩マランツ代表取締役社長の及川宏さんの方針は、同社の生産アイテムを見るだけでわかる。各種産業機器をはじめハンディターミナル、アミューズメント関連機器、防災ラジオや船舶無線…。専門的かつ特殊な製造分野への展開はOEM生産で培った生産力と基板実装のミニチュアライゼーション技術があるからだが、このような体制確立の背景には、親会社による生産拠点再編という会社存続の危機があった。

昭和50年、同社は日本マランツ(当時)の地方工場として設立された。マランツといえば世界的なオーディオメーカー。同社もアンプやテープデッキ等を生産していたが、設立5年目頃からは通信機器生産へ移行し、同時にOEM生産にも着手。工場再編が始まった平成8年頃には親会社からの受注はほとんどなくなっており、ついに平成14年、親会社からのMBOという形で新生・千厩マランツが誕生したのである。「工場閉鎖か独立か。二者択一という決断の中、全ての事業と従業員およびインフラを引き継ぎ、『私たちの会社』という強い気持ちを持ってスタートしました」と及川社長はいう。ものづくりの技と誇りを絶やすな。及川社長と関係者の熱意が道を拓いたのである。

エレクトロニクスを事業の柱に新ビジネス・アグリ産業に参入

現在の主要製造形態は、完成品生産・SMD(プリント基板表面実装部品)生産・顧客サービス・人材派遣業の4カテゴリ。完成品部門の主流である業務用通信機器は平成28年の完全デジタル化に向けて着実な受注が見込まれ、SMD生産では高度で特殊な品質が求められるためアジア圏の参入が難しいアミューズメント機器を引き受ける。顧客サービスでも近郊の電子業界のEMSにも対応し、同社の従業員を県外大手製造メーカーへ派遣する特定人材派遣も順調だ。

だが及川社長は持ち前の開拓精神で、新たなビジネスを見出した。受注環境の変化を受けて平成22年に移転した現工場で、翌年からスタートさせた菌床椎茸の栽培と販売である。アグリ分野への参入は「遊休スペースの活用と1年を通じ生産可能な

点、そして設備投資額が少なく済むことから」と及川社長。栽培地研修などでノウハウを学び、さらに国際品質規格のISO9001認証取得で培った品質管理や栽培室にマランツのオーディオシステムによるクラシック音楽を流すなど、電子メーカーならではの付加価値を追加。その名も「クラシックいたけ」は、地元はもちろん今や東京市場にも直接出荷、高い評価を受けている。

新会社設立から10年余り。業界の環境は一層厳しさを増しているが、及川社長は当センター主催の商談会をはじめ受発注会議等へも参加、次の挑戦向け準備を重ねる。「将来的には材料調達から対応できる体制をとり、メーカーは注文書1枚で発注が済むようにして受注の確保に繋げたい。既に当社のグループ会社であるマランツエレクトロニクスを中心に、資金を含めグループ調達に向けた組織作りを始めています」。切り拓くべき道は長く、未来へと続く。

我が社の「かぶ」はコレ!
業種や業態にこだわらないものづくりが強み

新たに立ち上げた新事業推進部は菌床椎茸の栽培ほか、平成24年度に一関市の全戸配布に対応した防災ラジオを納入、以降はラジオサポートセンター事業を受託しています。今後も業種や業態にこだわらず柔軟な生産体制で臨んでいきます。

代表取締役社長
及川宏



会社名 株式会社千厩マランツ
本社 一関市千厩町千厩字下駒場254
電話 0191-53-2321(代)
代表者 及川宏
創業 昭和50年(1975)10月
従業員 143名
業種 オーディオ、通信機器の製造・しいたけの生産、加工、販売
URL <http://www.senmayamarantz.co.jp/>

発信!!
いわての
かぶ

【支援企業紹介】一関市
株式会社千厩マランツ



平成25年度

下請取引条件調査結果

「基本契約書を取り交わしている」(76.4%) (前年72.9%)

当センターでは、県内下請中小企業と親企業間の取引条件等の実態を把握するとともに、下請取引の適正化を図ることを目的に、下請取引条件調査を実施した。

これによると、「基本契約書を取り交わしている」が76.4%と前年(72.9%)に比べ3.5ポイント増加しており、2年前(76.2%)の水準まで回復しているという結果となった。

また、代金の受取方法については、「全額手形」、「全額ファクタリング」がやや増加し、「全額現金」、「現金・手形併用」が減少していることがわかった。

調査について

調査対象：県内に事務所を置き、受注企業として登録している1,046企業
 回答企業：386社(回収率36.9%)
 調査時点：平成25年12月31日

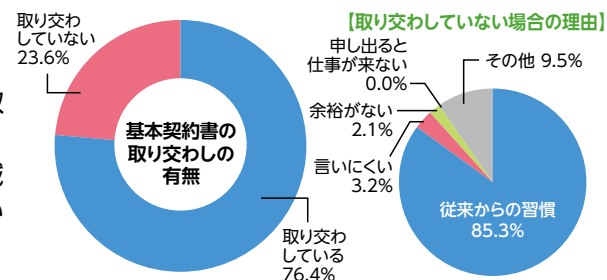
※比率は小数点第二位を四捨五入したため、合計が100%にならない場合がある。

基本契約書の取り交わし

書面取引改善(3.5ポイント増加)

全業種では、「取り交わしている」が76.4%(前年72.9%)、「取り交わしていない」が23.6%(前年27.1%)となっている。

業種別割合にみると、「取り交わしている」が、一般機械器具、精密機械器具、電気機械器具で高く、それぞれ81.9%、81.8%、81.6%となっている。反対に、繊維製品は「取り交わしていない」が高く、41.4%であった。

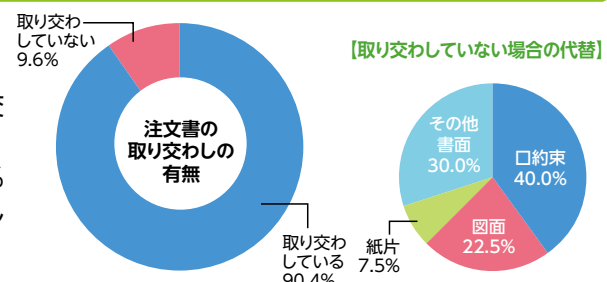


注文書の取り交わし

書面取引悪化(1.2ポイント減少)

全業種では、「取り交わしている」が90.4%(前年91.6%)、「取り交わしていない」が9.6%(前年8.4%)となっている。

業種別割合にみると、輸送用機械器具、精密機械器具が高く、共に100.0%となっている。反対に、樹脂・ゴム、金属製品、繊維製品は注文書を「取り交わしていない」が高く、それぞれ12.8%、11.4%、10.3%となっている。

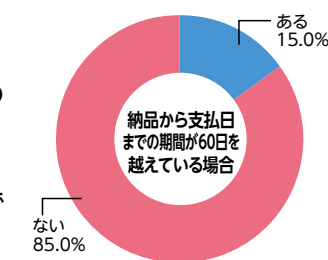


納品から支払日までの所要時間

支払期間改善(1.4ポイント減少)

全業種では、納品から支払日までの期日が60日を超えているものが「ある」は15.0%(前年16.4%)、「ない」は85.0%(前年83.6%)と、昨年に引き続き「ある」が減少している。

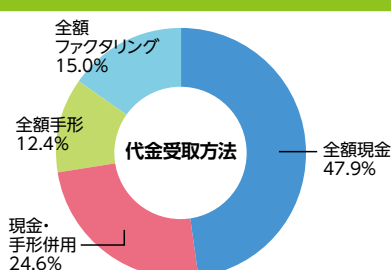
業種別割合にみると、その他を除いた、金属製品、電気機械器具で「ある」は、それぞれ17.0%、16.3%と高い結果となっている。



代金の受取方法

全業種では、「全額現金」47.9%(前年48.7%)、「現金・手形併用」24.6%(前年29.8%)、「全額ファクタリング」15.0%(前年12.0%)、「全額手形」12.4%(前年9.6%)となっている。

業種別割合にみると、繊維製品、輸送用機械器具、樹脂・ゴムは「全額現金」が高く、金属製品、鉄鋼・非鉄金属は「現金・手形併用」が高い結果となっている。

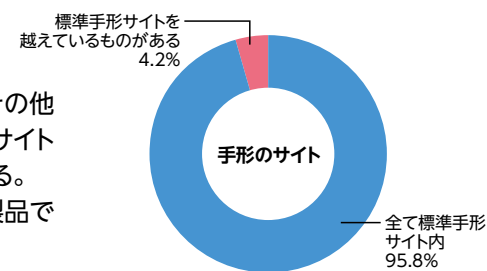


手形のサイト

標準手形サイト改善(2.6ポイント増加)

全業種では、「全ての標準サイト内(繊維業90日以内、その他の業種120日以内)」が95.8%(前年93.2%)、「標準手形サイトを越えているものがある」が4.2%(前年6.8%)となっている。

業種別にみると、鉄鋼・非鉄金属、電気機械器具、金属製品で「標準手形サイトを越えているものがある」となっている。



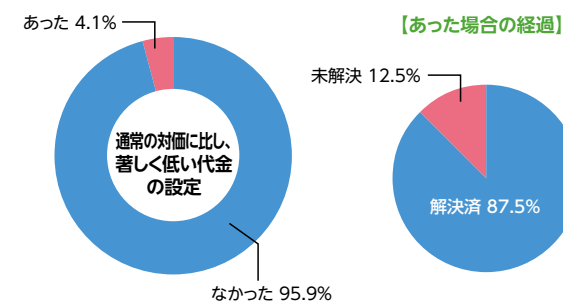
得意先との取引上の最近1年間のトラブル発生状況

【1.著しく低い代金】

通常の対価に比し、著しく低い代金の設定 - 悪化(0.3ポイント増加)

全業種では、著しく低い代金の設定が「あった」は、16企業・4.1%(前年3.8%)であり、そのうち解決済は、14企業・87.5%となっている。

業種別割合にみると、繊維製品、金属製品で「あった」が高い結果となっている。

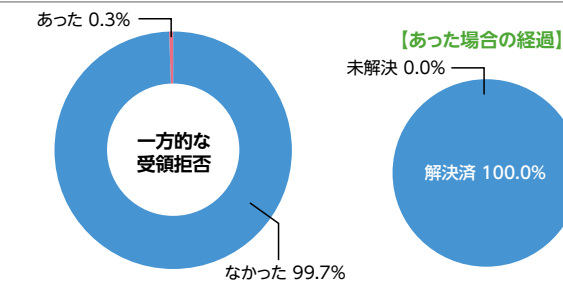


【2.受領拒否】

一方的な受領拒否 - 好転(0.6ポイント減少)

全業種では、一方的な受領拒否が「あった」は、1企業・0.3%(前年0.9%)であったが、解決している。

業種別にみると、電気機械器具である。

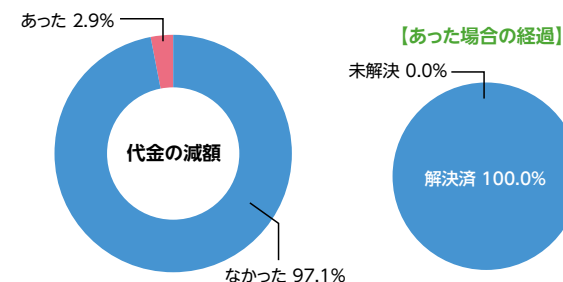


【3.代金の減額】

代金の減額 - 好転(0.7ポイント減少)

全業種では、代金の減額が「あった」は、11企業・2.9%(前年3.6%)であったが、全て解決している。

業種別にみると、金属製品、電気機械器具、繊維製品、樹脂・ゴムで「あった」となっている。

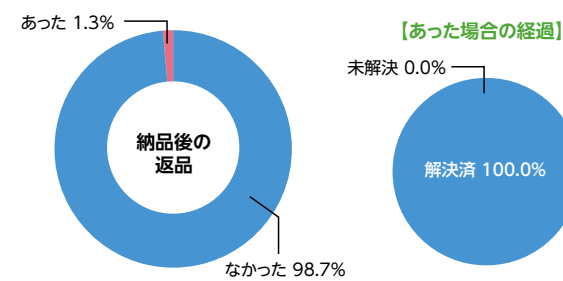


【4.返品】

納品後の返品 - 悪化(0.6ポイント増加)

全業種では、納品後の返品が「あった」は、5企業・1.3%(前年0.7%)であったが、全て解決している。

業種別にみると、鉄鋼・非鉄金属、電気機械器具、繊維製品で「あった」となっている。

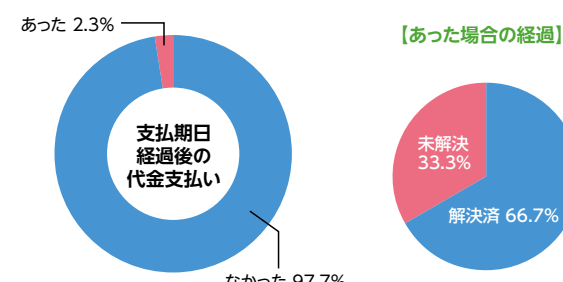


【5.支払遅延】

支払期日経過後の代金支払 - 好転(1.5ポイント減少)

全業種では、支払遅延が「あった」は9企業・2.3%(前年3.8%)であり、そのうち解決済は、6企業・66.7%となっている。

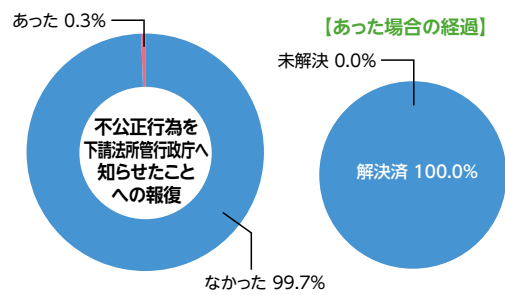
業種別にみると、電気機械器具、繊維製品、金属製品、一般機械器具で「あった」となっている。



【6.報復措置】

不正行為を下請法所管行政庁へ知らせたことへの報復 - 好転(0.1ポイント減少)

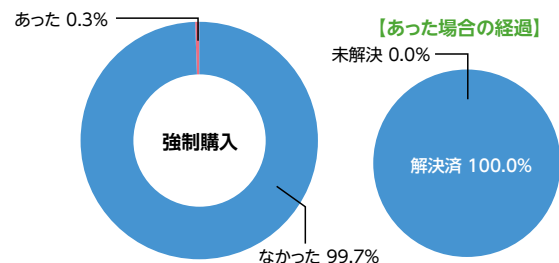
全業種では、報復措置が「あった」は、1企業・0.3%(前年0.4%)であったが、解決している。
業種別にみると、電気機械器具である。



【7.強制購入】

強制購入 - 好転(0.6ポイント減少)

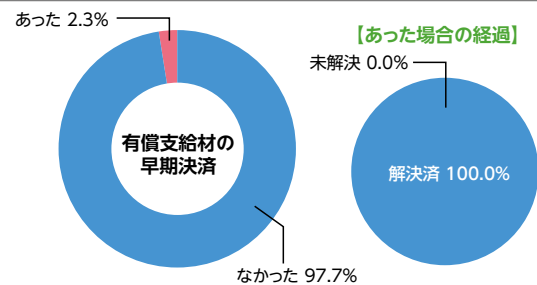
全業種では、強制購入が「あった」は、1企業・0.3%(前年0.9%)であったが、解決している。
業種別にみると、鉄鋼・非鉄金属である。



【8.有償支給材の早期決済】

有償支給材の早期決済 - 悪化(1.6ポイント増加)

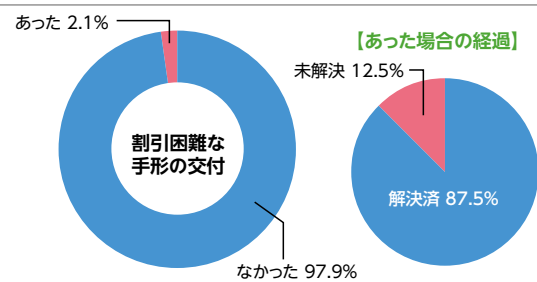
全業種では、有償支給材の早期決済が「あった」は、9企業・2.3%(前年0.7%)であったが、全て解決している。
業種別にみると、電気機械器具、繊維製品、金属製品で「あった」となっている。



【9.割引困難な手形の交付】

割引困難な手形の交付 - 悪化(1.2ポイント増加)

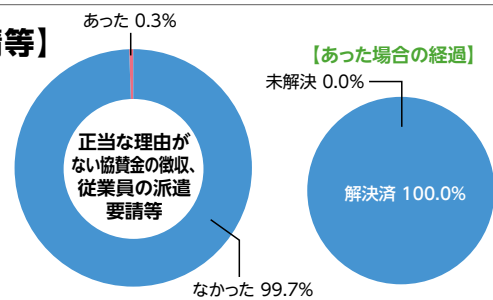
全業種では、割引困難な手形の交付が「あった」は、8企業・2.1%(前年0.9%)であり、そのうち解決済は、7企業・87.5%となっている。
業種別にみると、繊維製品、樹脂・ゴム、金属製品、電気機械器具で「あった」となっている。



【10.正当な理由が無い協賛金の徴収、従業員の派遣要請等】

正当な理由が無い協賛金の徴収、従業員の派遣要請等 - 悪化(0.3ポイント増加)

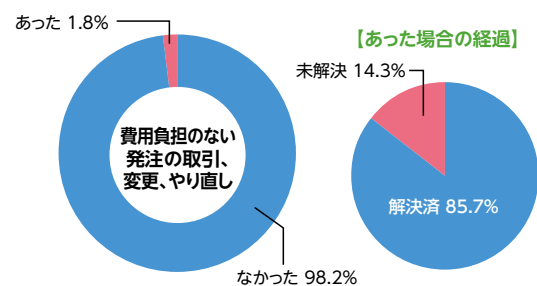
全業種では、正当な理由が無い協賛金の徴収、従業員の派遣要請等が「あった」は、1企業・0.3%(前年0.0%)であったが、解決している。
業種別にみると、金属製品である。



【11.費用負担の無い発注の取消、変更、やり直し】

費用負担の無い発注の取消、変更、やり直し - 好転(1.3ポイント減少)

全業種では、費用負担の無い発注の取消、変更、やり直しが「あった」は、7企業・1.8%(前年3.1%)であり、そのうち解決済は、6企業・85.7%となっている。
業種別でみると、電気機械器具、繊維製品、樹脂・ゴム、金属製品で「あった」となっている。



調査の結果「下請代金法(下請代金支払遅延等防止法)」の違反事案が見受けられます。

当センターには、「顧問弁護士への相談」のほか、「かけこみ寺」の制度があります。親企業との取引上のトラブルで困っていることがありましたらご相談ください。

お問い合わせ先 TEL.019-631-3822 ものづくり振興グループ

次世代の中小企業経営者等による異業種交流グループ

「いわて異業種交流討議会」の活動について

通称「いいこと」

「産業情報いわて」2013年12月号でご紹介しました、本県の若手中小企業経営者・次期経営者等による異業種交流グループ「いわて異業種交流討議会」、通称「いいこと」では、昨年7月の結成以来、外部講師を招いての講演会、メンバー相互の企業見学会、県外視察等の活動を行ってきました。

いわて産業振興センターでは、今後、「いいこと」が若手県における次世代の中小企業経営者のネットワークの中核として発展していくよう、その活動をサポートしています。



7月:顔合せ及びキックオフ講演会後の懇親会



9月:企業見学会(大船渡市)



8月:企業見学会(滝沢市)



10月:企業見学会(北上市)



11月:県外視察(大阪市の企業見学)



11月:県外視察(大阪市の企業見学)



11月:県外視察(愛知県の異業種交流団体との交流会)



12月:ILC(国際リニアコライダー)特別講演会

平成25年度 第2回 「新素材・加工産業化研究会」の開催について

当センターでは、岩手県の企業、研究機関、支援機関等が一体となって、コバルト合金をはじめとした特殊合金新素材の製造とその加工産業集積による産業クラスターの形成を促進することを目的とし、昨年10月に「新素材・加工産業化研究会」を設立致しました。

今般、素材や機械加工、加工ツールに関する基礎知識の修得や、新素材の加工を基に異業種への展開を行った企業の事例を紹介することにより、会員の皆様の加工技術等の向上にお役立て頂くため、第2回「新素材・加工産業化研究会」を下記の通り開催致します。

ご多忙の折とは存じますが、ご出席いただけますようご案内申し上げます。

開催日 平成26年2月21日(金) 14:30～19:30

会場 ホテルメトロポリタン盛岡NEWWING 4階メトロポリタンホール東の間

内容 主催者挨拶 14:30～14:40 / 講演会 14:40～17:30

テーマ1 「難削材の高速/高効率加工の取り組みについて
— 一切削シミュレーション技術を活用した切削条件の最適化 —」
株式会社神戸製鋼所 技術開発本部材料研究所 加工技術研究室 主任研究員 赤澤 浩一 様

テーマ2 「新しい風を呼び込むために」
株式会社豊栄工業 製造部 部長 美和 辰旺 様

テーマ3 「難削材加工の新たな取組み～実践編～」
オーエスジー株式会社 企画部 加工技術センター 今泉 悦史 様

※講演終了後、
交流会を予定して
おります
(会費4,000円)

参加対象者: 特殊合金や難削材加工に関心を持つ企業関係者、大学の研究者等

主催: 公益財団法人いわて産業振興センター

共催: 岩手県新素材・加工産業集積促進協議会

申込先 公益財団法人いわて産業振興センター ものづくり振興グループ「新素材・加工産業化研究会」事務局(担当: 鈴木、嶋)
TEL: 019-631-3825 FAX: 019-631-3830

ビデオ・図書コーナーのご案内

センターでは「ビデオ・図書コーナー」を設けております。ご希望の方には無料で1週間までお貸ししておりますので、どうぞご利用下さい!

センターホームページにリストを掲載しております。申込書をFAXまたはメールしてお申し込み下さい。また、センター事務所まで直接お越しいただければ手にとってお選びいただけます。

貸出条件

【貸出期限】…到着後1週間以内

【貸出本数】…ビデオ・DVD10巻、図書10冊まで(ビデオ・DVD・図書は一緒に貸出できます)

【料金】…無料

【送料】…借り主負担

※当センターから宅配便で送る際は、着払いとし、借り主に送料を負担いただきます。また、返却は、元払いとし、こちらも借り主に送料を負担いただきます。

※貸出は岩手県内の中小企業、または賛助会員に限ります。 ※一部貸出不可のものが 있습니다。また、貸出中の場合もありますのであらかじめご了承下さい。 ※賛助会員の方は、センターから送付する場合の送料をサービスいたします(返送料は負担していただきます)。

【お問い合わせ】 産業支援グループ(高橋、松村)

TEL019-631-3823 FAX019-631-3830 <http://www.joho-iwate.or.jp/libr/>

ビデオコーナーは
1月に一部
リニューアルしました



多くはビデオテープですが、
一部DVDもございます

